

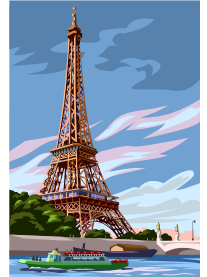
Interactive System インタラクティブシ テム特論(7.5)

Hiroyuki Kajimoto
kajimoto@hc.uec.ac.jp
Twitter ID kajimoto
Hash tag #itsys

特別講演：留学体験談

本日のスケジュール

- 10:40-10:55
前座：留学に関する一般的な話（梶本）
- 10:55-11:25
INRIA留学体験報告（蜂須）
- 11:25-11:55
パリ第6大学留学体験報告（佐藤）
- 11:55- 質疑応答



前座

留学～いつするか～ (いつかはするに決まってる)

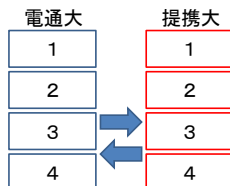
留学の多様なパターン

- 高卒後、海外の大学に、正規の学生として入学.
- 大学在学中、提携大学に交換留学生として留学.
- 大学を休学、Collegeを経由して大学に編入.
- 大卒後、海外の大学院に正規の学生として入学.
- 大学院在学中、提携大学に交換留学生として留学.
- 大学院在学中、研究員として留学.
- 大学院在学中、海外の企業にインターン.
- 社会人が会社の費用で研究留学orMBA留学

大学在学中、提携大学に 交換留学生として留学.

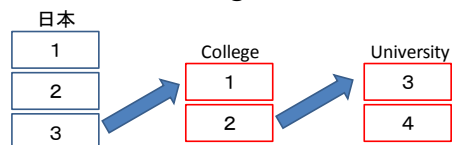
- 出来ること:
 - ✓授業を受ける.
 - ✓文化に触れる.

- 出来ないこと:
 - ✓それ以外のこと.
 - ✓研究.



- ✓授業に多くの演習が付き、力が付く場合が多い.
- ✓授業のみでは無味乾燥なのは日本と同じ.
- ✓社会的な人間なら、大学生活を満喫できる可能性.

大学を休学、College経由で大学編入

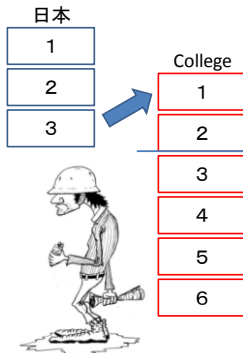


- College?
 - ✓米国の制度.
 - ✓大学1,2年の過程を勉強する短期大学
 - ✓その後大学に3年生から編入するために多く利用され、予備校的な意味をもつ.
 - ✓留学雑誌等で紹介され、多くの日本人が進むルート
 - ✓高校卒業後が半分程度.大学休学が半分程度

Collegeの落とし穴

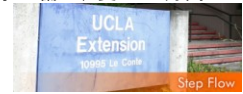
- 悪い例(全てではないが)
- ✓入学当初は進度の違いからトップクラスに.
- ✓その後ずるずると成績落下.
- ✓望みの大学に編入できず卒業を遅らせる
- ✓無限ループ. 5,6年居るケースはざら.

印象として強い意志が必要
(もちろん出来る人はできる)



(おまけ)短期語学留学の落とし穴

- 大学がサマースクールとして開講する機会が多い.
- (梶本経験)秋からのUCLA留学に備え,夏の一月間UCLA-Extensionで語学研修.



その実態は...

- 参加者200人程度.8割日本人(当時.今は違うかも)
- 初日の実力テストでクラス分け.8クラス.
- 最上位クラス:日本人3名.ドイツ,イタリア他10名.
 - ✓ディスカッション他
 - ✓半数程度が同じ立場(秋からUCLA編入等)
- 2番目のクラス:日本人10名,他10名.
 - ✓ディスカッション他
- 3番目のクラス
 - ✓遠足(笑)とか...

大卒後,海外の大学院に正規入学.

- ハードルはある程度高い.
 - ✓統一試験GREを課す大学がほとんど.
 - ✓留学生はTOEFL等.
- GRE(Graduate Record Examination)
 - ✓GRE General: 英語(Verbal), 数学(Quantitative), 論理(Analytical)
 - 英語は極端に難しい(米国の大学卒業生レベルの語彙力)
 - 英語以外は極端に簡単
 - ✓GRE Subject: 専門
 - 細胞・分子生物学, 生物学, 化学, 計算機科学, 英語文学, 数学, 物理学, 心理学の8分野から一つ.
 - 幅広い分野の基礎的な問題

多くの情報を集める必要.やる価値アリ.

院在学中,提携先に留学

- 「提携」...二つの意味
 - 大学院間の交換留学協定
 - 研究室を選ばず,授業だけ
 - 大学院講義に訓練的性格が強く,力は付く.
 - 実際,大学院生を雇って会社との共同研究を進める必要から,学生を戦力にする労はいとわない.
 - 研究室を選ぶ.
 - 自力で直接コンタクト.
 - 指導教員のツテで「ちょっと行ってこない?」
 - 研究室はすでに決まっている.
 - 研究のために行く.楽なパターン
 - 単位注意

院在学中,自分で探して留学

よくあるパターン

- 博士課程で日本学術振興会特別研究員に
 - 給料:20万/月,予算100万/年
- 研究員の身分のまま,海外の研究室を探す
 - 「私は給料を貰っているので,あなたの研究室で給料をもらう必要はありません」⇒通常大学院生を雇用している研究室にとっては破格の条件.
 - 大学院博士課程:専門分野ではある程度業績あり
- よくある例:半年~1年留学.元の研究室の研究業績と合わせて博士取得.

大学院在学中, 海外の企業にインターン.

- 海外企業のインターン制度:非常に盛ん
- 欧州の多くの国の大学院が,海外インターンを必修としている.
- 多くの事前調査と十分な語学力必要.
- 給料が高い場合が多く幸せな(充実した)留学
- ただし極めて高い競争率
- 一昔前は欧米中心.今だと中国の研究所(Microsoft等)なども候補

幸せな留学のために

- 大学院以降で、
- 研究に行く留学**を勧めます。

- 漠然とした短期留学はトラップが多い。
- そのわりに「体験した」レベルを越える収穫が少ない。海外でバリバリ働ける自信がつかない
- 留学はそれだけで不安定にさせるもの
⇒研究者という「立場」を持っていることが自分を支える。



結局、 트렌ディドラマの一員にはなれない。
でも研究者であれば研究語は話せる。

今回の留学報告



平成22年度以降の公募の取り止めについて

組織的な若手研究者等海外派遣プログラムについては、平成22年度以降も公募を予定していましたが、平成21年度第一次補正予算の事業に係る執行の見直しにより、平成21年10月16日の閣議において、本事業の執行費を見直すことが決定されました。これに伴い、平成22年度以降の本事業の公募を実施しないことになりました。

- 2009日本学術振興会「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」に電気通信大学が応募・採択
- 学生・教員問わず、研究者の留学を支援
- 人数：助教14人、博士課程8人、修士課程14人
- 期間：1ヶ月～半年
- 梶本研：修士2名、学部(当時)1名が応募。3ヶ月
...応募時、留学先は実は未定

講演者紹介(1) 修士1年 蜂須拓君

- 応募時：学部4年(現M1)
- 研究内容：触覚インタフェース
- 研究業績：国内主著4、国際1
- 訪問先：INRIA
- 受入研究者：Anatole Lecuyer



講演者紹介(2) 修士2年 佐藤未知君

- 応募時：修士1年(現M2)
- 研究内容：触覚インタフェース
- 研究業績：国内主著5、国際主著2、受賞国内2、国際1
- 訪問先：パリ第六大学
- 受入研究者：Vincent Hayward



特別講演：留学体験談

本日のスケジュール

- 10:40-10:55
前座：留学に関する一般的な話(梶本)
- 10:55-11:25
INRIA留学体験報告(蜂須)
- 11:25-11:55
パリ第6大学留学体験報告(佐藤)
- 11:55- 質疑応答

